

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 高橋 孝郎 埼玉医科大学国際医療センター 支持医療科 教授

研究要旨

分担した研究項目：高齢がん患者の緩和医療

高齢者社会に突入しているにもかかわらず、高齢者のがん診療について、不明な点が多い。がん診療に必要な不可欠な緩和ケアについても同様、高齢者に焦点をしばった問題点を明らかにしている研究は少ない。何が問題点であるかも不明であるため、問題提起するため医療者むけ研修会を企画した。また、高齢者がん診療指針のもととなる、「高齢者がん医療 Q&A」の総論のパブリックコメントを募集した。

A. 研究目的

高齢者のがん診療における、診療指針を策定するために高齢がん患者に対して行う緩和ケアについて、高齢者特有の問題は何であるか調査する。

B. 研究方法

Pubmed にて”older adults” “palliative care” cancer などを検索語として検索 UpToDate や NCCN ガイドラインにて同様の検索を行い、高齢者がん診療における緩和ケアの問題となっている点を抽出する。高齢者がん医療協議会の研修会や、公開討論会に出席することで、高齢者の緩和ケアについて理解を深める。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

Pubmed にて”older adults” “palliative care” cancer を検索語として検索すると、世界レベルにおいても、まだ研究が進んでいない。

「高齢者がん医療 Q&A」の総論のパブリックコメントを募集したが、高齢がん患者についての緩和ケアについての意見はなかった。

D. 考察

高齢がん患者の緩和ケアについては、まだ研究が進んでおらず、社会的にも関心は低い。

そもそも、高齢者自身が緩和ケアの対象であり、エンドオブライフケアの対象さえある場合がある。

がん診療は多かれ少なかれ侵襲をともなう治療であるので、治療の施行には緩和ケアの同時進行が必要であることをオンコロジストがよく理解することも重要と思われた。

E. 結論

高齢がん患者を対象とした緩和ケアの研究はまだ少ない。

オンコロジストは、老年医学の知識に基づいてがん治療を組み立て、緩和ケアも同時進行させることが必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

「がん専門医療人材養成プラン」関東がんプロのインテンシブ短期コースで、包括的ライフステージサポート医療人養成コースを、2020年3月7日に埼玉医大日高キャンパス保健医療学部講義室において企画したが、残念ながら COVID/19 蔓延のため延期となった。

（「高齢がん患者の診断。治療」について講義準備を行った。）

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし